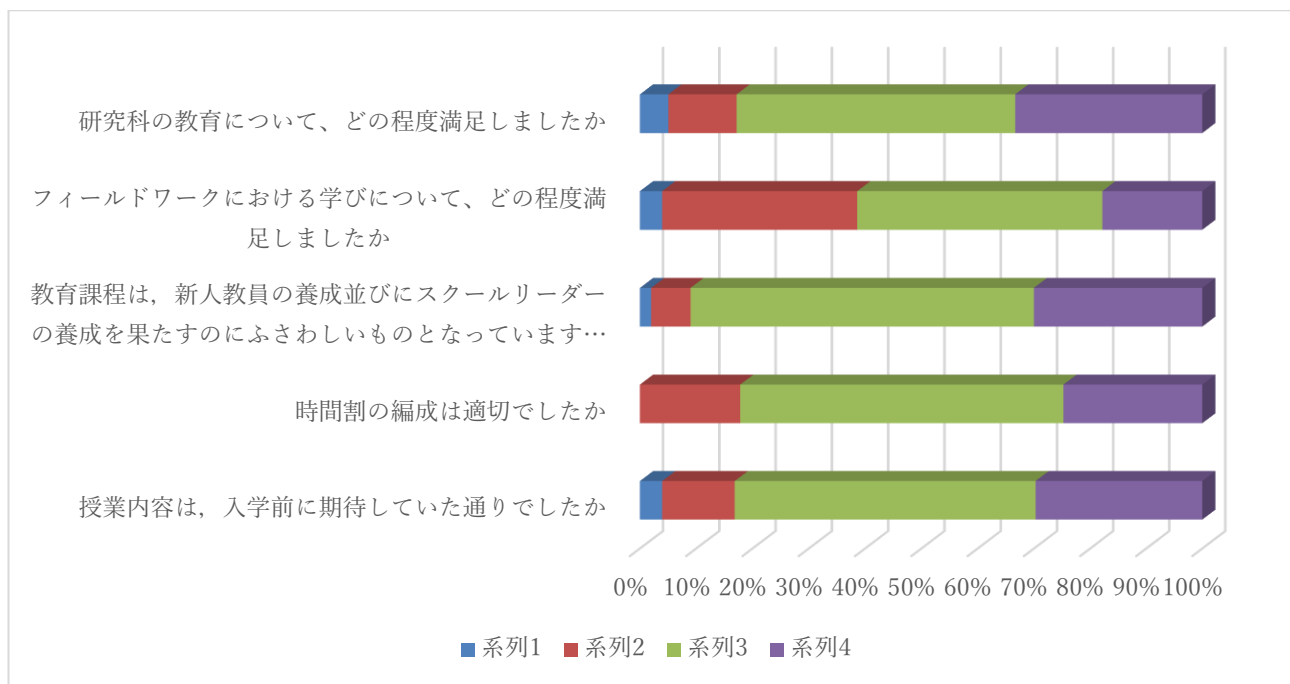


1. 研究科アンケート集計結果

	全く否定	やや否定	やや肯定	全く肯定
授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか	2(4%)	7(13%)	30(54%)	17(30%)
時間割の編成は適切でしたか	0(0%)	10(18%)	33(58%)	14(25%)
教育課程は、新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。	1(2%)	4(7%)	35(61%)	17(30%)
フィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか	2(4%)	20(35%)	25(44%)	10(18%)
研究科の教育について、どの程度満足しましたか	3(5%)	7(12%)	28(49%)	19(33%)



自由記述

①模擬授業など見ていても、教材研究をそもそもできていない場合、子どもを想定していない場合など、研究以前の課題を感じるがあった。そのあたりのフォローがあれば、さらにそれ以上の考察を深めることができ、現場で活かせるのではないか。

②とてもよいと思います。fwもコロナのためということであれば仕方ないとおもいます。

③専門実習の期間が少し長いかなと思いました。まとめて実習をするのではなく、週に2回程度で実習校に参加するような形などありだと思えます。

④一部の授業において、現職(昼間は勤務している)との両立をする上で困難を有する事案があった。過度なレポートの提示や急な日程変更など。

⑤フィールドワークに関しては、コロナウイルスの関係から、現地に行けなかったものもあり、残念でした。ただ、様々な実際の現場を見ることを通して、多くの学びが得られたことは事実で、とても良い機会をたくさんいただいたと考えています。

1年間のカリキュラムを通して、たくさんの先生方の講義を受け、多くの学びを得ることができました。教育に対する知識量は、圧倒的に増えたような気がします。ただ、教職大学院の性質上、難しいのかもしれませんが、「研究」という側面に関しては、もう少し知識を増やしたり手法を身につけられたらよかったなと思います。

1年で、たくさんの学びがありました。退職される先生もたくさんいらっしゃり、大変残念ですが、1年間ありがとうございました。

⑥フィールドワークもっと行きたいです。教授方や現職の方ともっと交流できる場が欲しいです。

⑦修士論文の研究発表会は、今後現場にでたときに試される力の育成につながるように感じた。時間の関係上、すべての発表をみることができないのが残念です。

強いて上げるとすれば、少なくとも私は、公式なパワーポイントを作成した経験がありませんでした。こういった機会でも、どうすれば見やすいのかを探求するきっかけになったともいえます。ゼミごとでも、講義でも、どこかでパワポや資料作成での文章力を向上させる大切さを教えていただければ、現場に出たときにより自信をもって意見を表明できることも多くなるのではないかと感じました。

最後になりますが、私としては、この大学院で学んだ内容に不満はなく、ここでの学びを活かして教師としての役割を果たしていきたいと思えます。

ありがとうございました。

⑧コースの科目をもう少し履修できるようにしてほしかった。現職でありながら取って学校経営ではなく生徒指導力高度化コースを選んでいる。現職で一括りにした授業はどうしても学級経営高度化コースより授業な気がした。

また専修免許の取得要件との加減で難しいのかもしれないが、共通科目が非常に多く感じた。しかも新学習指導要領や令和の日本型教育の話など、内容が大きく重なる授業が多々あり、効率の悪さを感じた。そういう授業を一つ作り、他で重複しないようにはできないか。

⑨前期に理論知を網羅して、後期の演習で実践とクロスオーバーさせることで学校そのものの見え方や自分の教育に対するあり方が変わってきました。とても学びの深い一年となりました。

ただ、論文における研究の仕方について、質的や量的、その方法やプロセスなど全く無知の状態を手探りで進めるところがかなり難しく、研究の方法論に時間を取られ、肝心の分析や考察までいくのに途方もない時間を費やした印象があります。

また、現職で仕事が免除されてるとはいえ、家事育児に費やす時間との兼ね合いで言えば、課題作成や論文購読に追われ、深夜に洗い物や洗濯、子供の用意をし、土日にどこか連れていくこともできず、家族、祖父母には非常に負担をかけた一年となりました。自分自身も何度か体調を崩すなど、学びの対価としての負荷は相当なものでした。(アカデミックの世界の厳しさを知りました。

研究は非常に深まりましたが、修養の面では教育以外で自己を深める機会はほとんど持てなかったのが残念です。(時間があってもコロナでなかなか難しかったかもしれませんが。) 各科目で課題の量を調整してもらって、土日に家族と向き合える時間があればありがたかったかなと思います。とはいえ、支えてもらった方々のおかげで、教師人生のコアとなる部分を得ることができた気がします。

一年間ありがとうございました。

⑩来年度以降どのような教育課程になるか分からないのですが、教育に関する基礎的なことを振り返る時間も取れたらより良くなるのではないかと思います。

⑪・フィールドワークに協力していただいている学校と、研究科との間でもう少し、目的のすり合わせがあれば良かったと思います。

・修了論文を書くことは、非常に大きな学びであったと感じますので、前期から、もっともっとテーマについて、指導教官の先生方の力をお借りしながら詰めていければよかったなと感じています(自分の力量不足と1年間という限られた期間を考えると)。

⑫内容については特にありません。

コロナによって授業の制限などがあったことが残念でした。

オンライン授業はどこまでいっても何かの不都合が出るとは思いますが、機器の整備などをもう少し進めていただければよかったかなと思います。

⑬大学院の1年間の学びはとても深まりました。自分の脳が学びほぐされたように思います。この学びを現場に帰った時にどれだけ生かされたが、学びが深まったかの基準になると思うので、その思いを残しながら実践を重ねていきたいと思います。

いろいろな分析方法について、具体的に学ぶ授業があっても良かったと感じています。

⑭勤務と修学を兼ねられることのありがたさを忘れていないが、設定時限を遅くしていただけると年休を取って職場を抜けることの後ろめたさがなくなり、ありがたい。

⑮ 勤務しながらの履修だったので、特に夜間の講義はありがたかったです。今後も教育に関する研究活動がもっと深化できるような、カリキュラムを用意してもらえたら嬉しいです。

⑯ゼミ担当教員毎に、質に差がありすぎる点を改善してほしい。

また、コロナ禍であった点を踏まえても、M1からゼミで指導を受ける機会が十分あったとは言い難い。授業時間割に組み込み全院生が同じ時間に受講するようにする等するとともに、午後から夜にかけて授業を開講している意図を教員間でも共通理解してほしい。

⑰教職実践演習IIの期間が長いと感じられます。研究と実践バランスを実習校で取れると思えないからです。

⑱この2年間で振り返って、コロナ禍ではあったのでほとんどのフィールドワークがなくなってしまったので非常に残念でしたし、少ないなと感じました。

ゼミに関して、実務家ゼミは問題ないですが、研究者ゼミは選択制にするべきだと思います。そもそも、大学の学部時代からゼミに所属していた院生は多いと思いますが、私たちに選択肢があったと思います。修論を

書くならなおさら、自分の興味のある分野で研究をする方がより充実しているかと思います。ゼミの先生によって活動内容が違うので、様々な研究会や研究者と関わって活動的なゼミもあれば、なかなかゼミ活動が充実したように感じるができないゼミがあるなど、非常に差を感じてしまいました。

⑱ 修論の20分発表は詳しく説明していただけるのでありがたい一方で、間延びした印象も受けた。また、ルームが別れたことで聴かせていただける発表が半分になってしまうのも少し残念だった。

⑳ 教員という立場を休職し、次の年に学校現場に恩返しをしたいという思いが強くあったものの、初めは大学の学びと自分の学びたいことが一致しないと苦しかったです。ただ、この時間で「自分で学ぶ学び方」を再認識し、また、ゼミの先生の丁寧なご指導により実りある日々となったかと思います。一つご意見させていただくとするならば、現職のみならずストレートマスターの子たちも教職の場につく時に「このような授業をしたい」と思えるような授業（講義）を先生方に見本としてし続けていただきたいです。このことは、すぐに働いた時の糧となるかと思います。「研究」と「実践」が融合する大学の先生方であることで、私たちもより良く学べると 생각합니다。未来の先生方のために是非お願いいたします。このように申し上げましたが、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。特に徳永先生においては、わがまま申すことも多々ありましたが、文脈を理解していただき、多くの提案をいただいたこと感謝しております。本当にありがとうございました。

㉑ 京教の連合に来たことに正直後悔しています。やりたい研究があって大学院に来たのに、それを否定するようなことをいう先生がいたり、実習校によって本当にやりたい研究がやりづらくなったり（＝運が良ければ実習校を活用して研究をできる院生もいるのに実習校によってできない）、省察とかいう言葉を使うわりにそれが浅かったり、教員の中の教科的な専門性に偏りがあるせいで教科のことを相談できる人が全くいなかったりして、ほかの大学院に行ったらよかったなと思いました。模擬授業をしたり単元計画を考えるような授業でも授業行為くらいしかまともにフィードバックがもらえない（コメントだけで代案がない）こと、そもそも先生方が教科の新学習指導要領すら理解してなさそうなこと、院生の専門教科ではなく他の教科の人と一緒に無理矢理単元計画を作らされたりしているのを見てみると、模擬授業も単元計画もやる意味がないなど感じます。本気でその科目を教えよう、技量をつけようとしている人に対して、「〇〇の教科に関しては詳しくないので知りませんが」といってまともに先生からのフィードバックがないのは失礼にあたるのでは？

・修論発表会で、修論生の発表を佐々木先生が「読書感想文」といって悪いように言っていました。そもそも発表会に至る前の指導でそういうところは直さないのでしょうか？本気で研究の指導をしてくださるのか、研究家の先生のレベルを疑問視します。